

会 議 録 ( 1 )

会 議 の 名 称	第4回入間市シティセールス戦略会議
開 催 日 時	平成27年7月24日(金) 午後2時開会・午後4時30分閉会
開 催 場 所	入間市農村環境改善センター 洋会議室
議 長 氏 名	小林 昌幸
出席委員(者)氏名	関山 祐介、小林 昌幸、西澤 正夫、高橋 進、椎葉 京子
欠席委員(者)氏名	相本 大地、小川 大策
説明者の職氏名	商工課 副参事 守屋 俊久
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	1 開会 2 議題 (1) 戦略プランについて ①戦略の枠組みについて ②これまでのまとめについて (2) その他 3 その他 4 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	0人
配 布 資 料	入間市のシティセールスを考える(資料5)
事務局職員職氏名	環境経済部部長 山崎利明、次長 増岡 清、副参事 守屋俊久、 環境経済部参事兼商工課長 宮岡利雄、副主幹 村山泰貴
戦略策定支援業務 委託業者	一般財団法人公共経営研究機構 渡部哲也、瀬戸忠保
会議録作成方法	要点筆記

## 会議録（２）

### 議事の概要（経過）・決定事項

次の議題について事務局から説明。

- ① については、守屋副参事より説明。
- ② については、関山副委員長より説明の後、意見交換を行った。

#### （１）戦略プランについて

- ① 戦略の枠組みについて
- ② これまでのまとめについて

#### （２）その他

## 会 議 録 ( 3 )

発 言 者	発 言 内 容
小林委員長	<p>(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)</p> <p>本日の出席委員さんは5名ですので設置要綱により定足数に達していますので、会議は成立します。また、本日の会議録の署名は西澤委員さんをお願いします。</p> <p>これより議事に入ります。</p> <p>それでは、議題(1)①戦略の枠組みについて議題とします。事務局より説明をお願いします。</p>
守屋副参事	<p>それではご説明をいたします。この戦略会議は昨年度2回、今年度6回の計8回で戦略を作っていただくことで進めていただいておりますが、4回目ということで、方向性の確認と、この後の流れをご説明いたします。戦略を策定する中で、この後、まとめに入らせていただいて、8回のところで市に報告いただく形になります。</p> <p>その前に、市民の意見を取り入れるパブリックコメントを行いまして、約1ヶ月間、市民の方に原案を提示します。</p> <p>それが終わりますと、原案が出来上がり皆さんにご説明できればと思います。コンセプト、方向性を決めさせていただいて、確認をしながら今後進めて参りたいと思います。</p> <p>また、枠組みと申しました、人間市の総合計画は10年間を目途に動いていますが、その辺との整合性も含めまして、具現化していくかご協議いただくことが起こってきます。方向性を出していただいて、それをどう動かしていくか、組織や体制のことも出てくるとは思いますが、どの方向に向かっていくのかが、今回の議題になるかと思えます。</p> <p>原案は12月に、戦略は3月末に出来るというところで、準備してまいりたいと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
小林委員長	<p>ただいまの説明でご質問のある方いらっしゃいますか。大体の流れを確認していただきたいと思います。それでは、①については以上とします。では、②についてお願いします。</p>
受託業者	<p>ご説明させていただきます。</p> <p>まず、こちらの資料「入間市のシティセールスを考える」をご覧ください。委員の方には事前にこのシート、目を通していただいたと思いますので、あまり詳細なことを述べると重複になりますので、かいつまんで説明いたします。</p> <p>まず、目次がございます。</p> <p>—資料説明—</p> <p>入間市のシティセールスありきたりなシティセールスにしないために。</p> <p>戦略会議の内容とコンセプト、方向性の考察。</p> <p>アクションプラン草案。</p> <p>シティセールスの全体像。</p> <p>最後に。</p> <p>最初の「入間市のシティセールス、ありきたりなシティセールスにしないために」の部分は、プロのコピーライターとしての視点。これまでの経験や考え方から、入間市らしいシティセールス、入間市独自のシティセールスにするためには、どういう考え方でアプローチをすべきかを書いたものです。</p> <p>次の「戦略会議の内容とコンセプト、方向性の考察」につきましては、ここまで、戦略会議で皆さんにご議論をいただいた内容をもとに包括的にまとめたものです。</p> <p>さらに「アクションプラン」では、その考察をもとに、五つほど提案がございます。</p> <p>それらの全体像としてまとめたものが26ページの「シティセールスの全</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>体像」になります。</p> <p>そして最後に。</p> <p>まず、「入間市のシティセールスをありきたりなシティセールスにしないために」。一般のシティセールスは心を掴もうとしていない、つまり、一切切切で考えてしまっているために、頭で理解する分には正しくて、理論的にはきちんと理解できるのですが、市民の皆さんの共感、あるいは、市民以外で入間市に興味を持っていただける方の共感を得ていない、そういう風なものになっているのではないかという考えです。</p> <p>その次の、シティセールスは、「まちとひとのマッチング」と考える。シティセールスのコンセプトは、告白でありプロポーズのようなものなのかもしれません。行政は出来るだけ広く皆さんにプレゼントを感じてもらわなければなりませんので、悪く言えば八方美人的なものになってしまう。</p> <p>しかしそれでは、100人いたら100人の心を共感させることは出来ない可能性があります。大切な一人の心に届けるためには、どうするかということで、シティセールスを考えていきたいという、提案です。</p> <p>入間市は人口約15万人ですので、他市とは違うコンセプトを提案していかなければならないということで、お考えいただけたらと思います。</p> <p>「戦略会議の内容とコンセプト、方向性の考察」ということで、基本的にはこれは、皆さんの議論のこれまでの流れをもとに作成しています。</p> <p>「行動」は、入間市の魅力を戦略的かつ効果的に市内外にアピールする。どの魅力を誰に対してどのようなかたちでアピールするのが課題になっています。</p> <p>「期待する効果」、行動することで生まれるもの。</p> <p>市民の郷土愛を育む、入間市の認知度を高める。</p> <p>どのような郷土愛を育むのか、高めたいのはどのようなイメージのもとの認知か。</p> <p>そして、「成果」として、活力創造の具体的な仕様。観光客、居住者、企</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>業の誘致及び定住、交流人口定住人口の増加、企業誘致数の増加ということになっています。ここで課題になっているのが、観光客と居住者のどちらに重きを置くのか、といったところです。これまでの議論からほぼ答えが見えていると考えております。</p> <p>次のページです。「入間市のシティセールスのプロジェクト構築フロー」。</p> <p>こちらに図がありますように、地域資源の洗い出しからアクションプランの作成まで、皆さんの知恵や力をお借りしてここでまとめていく。</p> <p>その次のページの「地域資源の洗い出し」入間市の象徴的な地域資源。これは、前回皆さんに出していたものを地図の上に配置したものです。ビジュアル的にご理解いただけるような配分になっています。そういった中で、用途は両方の魅力を持ち合わせているというのが入間市の特徴です。もう一つは、自然、施設、催しのすべてに独特な文化、カルチャーの側面にあるということも見逃してはならない。</p> <p>そして、「課題」の洗い出しをいたしました。</p> <p>課題としては、こちらにありますように、左側の黒い字で書いてある所が、入間市がこれからシティセールスを行っていく時に、どういう問題があるか、というところであります。それを、課題として考えた時には、若い世代、30代の新規居住の必要。狭山茶の生産量ナンバーワンというファクトに頼らないアプローチの必要性。観光を強力にプッシュしようとしても受け皿がない。ジョンソントウンに貢献する視点。導線、移動手段の改善。などのような課題があります。</p> <p>次のページ「強み」としては、こちらに挙げているようなものでございます。単に、自然風景として美しいだけでなく、懐かしさやモダンを感じる。はずせない要素、市民に身近な主要産業。</p> <p>時代に左右されないお洒落さやライフスタイルへの憧れを受け止める。</p> <p>ライフスタイルの実現、自己表現の場としてセンス、こだわりある人を選</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>ばれている実績。</p> <p>日本らしさも大切にしている生き生きとした人の交流、営み。</p> <p>こういったところが、これまでの戦略会議で出されてきた入間市の課題と強みです。若い世代、30代の新規居住推進をシティセールスのメインで、交流人口を観光にするのか、それとも定住人口にするのかという、投げかけがありましたが、若い世代の新規居住推進というのが、入間市の場合はメインのテーマになってくると考えますし、そういったところでコンセンサスが得られると思います。そして、狭山茶やジョンソントウンなど感性や情緒をくすぐる象徴を併せ持つからこそ、他市の言う住み心地の良さとは一線を画した、自分なりの憧れを思い描けるということです。先ほど、私が入間市ということがございましたけど、こだわりを持ってこの地を選んで暮らしていらっしゃる方がいる。たぶん、入間市はそういう方にも選ばれるまちではないかと我々は考えていますし、シティセールスによって、そういうライフスタイルを提供するというのも、一つの提案ではないかということです。</p> <p>「ちょっとセンスのいい暮らし」や「穏やかだけどすごく満たされる感覚」に憧れ、それをかなえたいと思っている層を入間市に惹きつけたい。このあたりから、いよいよ戦略の中心になってきます。こういう人たちを、どんどん入間市に惹きつけて、入間市に定住していただきたい、というのが入間市のシティセールス戦略として有力なのではないかと考えています。</p> <p>「味わう」という、住む人、訪れる人の視点をシティセールスのコンセプトとして考えています。この味わうというのが、入間市のシティセールスのコンセプト、キーワードではないかと、我々は捉えています。</p> <p>入間市シティセールスコンセプト。</p> <p>「入間にはテイスティな毎日がある。」これは瀬戸さんが考えたのですが、そのコンセプトをもう少しビジュアライズすると、次のページ、「コ</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>ンセプトとアクションプランの関係。」</p> <p>コンセプトは、入間にはテイスティな毎日があつて、皆さんに色々ご意見をいただいたものが配布されていますが、意見の中からコンセプトが決まったと言えるし、さらにこのコンセプトからアクションプランにブレイクダウンすることもできる、そういう構造になっています。</p> <p>そして、「アクションプランの草案」です。</p> <p>まず、アクションプラン案の①、「米軍ハウス建築推進及び景観創出プロジェクト」。</p> <p>人気なスポットになっているジョンソントウンにならつて、米軍ハウス風の住宅建築と居住の推進、入間市のモダンなイメージと新規居住者の獲得を狙う。そして今、空き家問題や老朽化した家屋の問題などあると思えますけれども、そういった問題も併せて解決していきたい、と考えています。</p> <p>アクションプランの②、「金子駅周辺狭山茶アンテナショップ」。</p> <p>金子駅周辺にお茶の香りを漂わせ、農家ごとにお茶を提供するようなアンテナショップを設置するというプランです。</p> <p>こういった入間ならではのアクションプランが考えられます。</p> <p>アクションプランの③、「茶畑の景観活用プロジェクト」。</p> <p>従来から散歩道として、お茶畑の景観、美しさには定評がありまして、ここをもう少し積極的に発信をして、ゲルに泊まる茶畑ツアーですとか夕暮れ茶畑ツアーなど、これまでとは異なる切り口を企画して、茶畑の景観を積極的に活用することが必要だと思います。</p> <p>当然、入間市の中を色々回っていただくためには、休憩をする、その雰囲気を楽しんでいただくようなスペースが必要です。</p> <p>そういったものが、プラン④、「入間市の雰囲気にあつたテイスティなカフェ誘致増加」。</p> <p>観光客のみならず地域の方々が市内を散策するときに、小腹を満たす、雰</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>           囲気を楽しんでいただけるような、そういったカフェの出店を促していく、というものです。         </p> <p>           そして、最後のプラン⑤、「商品開発、狭山茶のミスマッチアイテムの開発、販売」。         </p> <p>           入間市でしか味わえない狭山茶の新しい商品を開発、販売して、従来にはないイメージを創出する必要があるのではないかと考えています。         </p> <p>           今回のアクションプランでは、取り上げておりませんが皆さんからは、入間川のバーベキュー、カナダのような景観を切り口とした彩の森公園PR、関取とちゃんこ体験、そういったこともございます。アクションプランと組み合わせてさらに価値を高めるようなことも可能だということです。         </p> <p>           そして、これまでの全体像をビジュアルとしてまとめたものが、「シティセールスの全体像」です。         </p> <p>           文化・自然・和と洋の二面性などの地域資源から導き出したコンセプトが、先ほど申し上げた、入間にはテイスティな毎日がある。         </p> <p>           入間に住む人来る人に、豊かな人生を味わってほしい、そういう人生、価値観を見出す人にどんどん来ていただきたい。そういう信念・理念が入っているというふうに思います。         </p> <p>           魅力の創出、再創造を通じた居住者誘致、愛着深化、地域活性の実現、そういったプランを通じて実現していきたいと、皆さんはおそらくお考えだと思います。         </p> <p>           最後に、入間市のシティセールスは、八方美人的なものではなくて、告白、プロポーズすることだということです。新たに入間に愛着を持ち、住んでいただける方を増やしたいと瀬戸さんがシナリオを描いていただきました。         </p> <p>           どんな魅力があって、どんな人を呼びたいか、薄々皆さんの中でイメージがあったと思います。でも、ぼんやりとした中で企画案を出してしまう         </p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>と、そればかりが先行してしまっ、せつかく考えたエネルギーが一つの方向に向かっているかない、しかも伝える相手にとっては、心に届いてかない、そういう状況をまず解消して、その人に向けて本当にプロポーズしていくって一言がどこにあるかなって延々と探し続けました。</p> <p>やっぱり見逃すことが出来ないのが、人間にはお茶があるということと、ジョンソントンというものがあって、両方ともお茶を味わう、暮らしのテイストを味わうみたいところで、まずはそこから入って行って、その枠の中で色んな魅力が吸着していくように、伝えたい人にシンプルに伝わっていく、というものを探していました。これが理屈としてどれが正しいかとか、計画として破綻していかないかというよりは、皆さんの中でこの言葉が刺さっているでしょうか。</p> <p>例えば家族の顔を思い浮かべた時に、この言葉だったら、住んでいる人、訪れる人の視線で、素直に心に届いてくれたのか判断してもらおうと嬉しいなと思います。</p> <p>補足で「入間の休日」っていうコンセプト。これもなかなか捨てがたい。前回、「休日は入間」みたいなお話もあったと思います。それは、あくまで切り口の話であって、これをコミュニケーションしていこうと思ったら、言葉として表現していく必要がある。そこで、出てきたのが、「入間の休日」。ローマの休日のもじりですが、I r u m a ' n h o l i d a y っていうような言葉はないのですが、言ってしまったらチャーミングになっていくかなということ表現してみました。カタカナにしてみると、「ビルマの堅琴」みたいになってしまうので避けました。今までお話ししたように、色々なことを解決していく中で、テイスティな一言ではないかなと自分の中では思っています。</p> <p>表現としてはとても捨てがたいものではありますが、比較としてご覧いただければと思っております。</p>

発 言 者	発 言 内 容
西澤委員	<p>アクションプランのその他、バーベキューやカナダのような景観のPR、関取とちゃんこの体験。一部分で出ていますが、学校給食のことやテイスティの中の重要な要素で日本文化的なちゃんことか関取とか相撲とか、まとめるときにデータがなかったものですから、この中に入っていません。その辺も踏まえてご提示いただいて、枝葉をつけていけたらと思います。また、いくつか具体的に米軍ハウスの他の空き家を利用しようであるとか、茶畑の景観活用とか、カフェの誘致であるとか、それから商品開発をしていく方向ですが、行政が予算を作って、仕掛けるということではありません。時代背景からして違っているので、例えば米軍ハウスの空き家に新しくカフェが出来たら、そこで、コーヒーショップ、ホットドックなどをやってくれる店が、自然発生的に出来るっていうような方向になればいい、そういうふうを考えていければと考えています。</p> <p>相撲がまちに根付き出して20年くらい経つと思います。第1回目が市制施行30周年の時に大相撲の巡業を呼び、その当時、若貴ブームで非常に相撲人気が高まっていた。何かイベントをとるので大相撲を呼ぶのが、このまちに相撲という風が吹き出した原点だったと思います。それに伴って、その前の年、わんぱく相撲入間大会で小学生に声掛けをして社団法人入間青年会議所が始めたのが、今から20数年程前になります。</p> <p>全く相撲のすの字もないまちでしたので、当初は非常に違和感があった文化だったような気がします。しかし、大相撲とは別に、わんぱく相撲というのを、地道に青年会議所主体の流れによって、回数を重ねていったところ、途中プロのお相撲さん、例えば当時横綱貴乃花、貴乃花親方のお力も借りたりして、地道にやっていったところ、近年、教育文化というか教育現場の学校をはじめ、もちろん教育行政の皆さんにもご理解いただいて、わんぱく相撲が成功して、徐々に受け入れられたように思います。それに合わせて、私自身が高大とアマチュアですがやっております、その時</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>の同期に関脇栃乃和歌がいました。彼が引退をしまして、春日野部屋の師匠になりました。それに合わせて、わんぱく相撲がここまで大きくなってきたので、有志の皆さんが春日野部屋の入間後援会を作ろうということで、春日野入間後援会というのを立ち上げていただきました。16年くらい前から、わんぱく相撲だけでなく、プロのお相撲さんの息吹というのが入間の方にも感じられるようになってきました。そんな関係で、毎年10月に大相撲の春日野部屋の入間合宿で10日間、十何年も継続的に行っています。これが、お相撲というのが子どもたちだけでなくお年寄りの皆さんにも興味をもっていただきたい。そして、全く相撲という文化のない、お相撲さんを見たことのない市民が圧倒的多数という中で、お相撲さんがまちを闊歩しています。買い物やコンビニに行く。そういうことが、徐々に徐々に広まって行って、入間がお相撲さんを違和感なく受け入れられるようになった。もちろん10月の10日間は、稽古に関しても、見学自由にやっておりますので、年々、商工課の皆さんのお力もいただいて観客人数も増えてきた。そんな中で、わんぱく相撲の子どもたちの無邪気な相撲と、頂点を極める大相撲の両輪で少しは入間の中で広がっているのかなど。近年、わんぱく相撲だけではなくて、昨年、入間少年相撲クラブというのを立ち上げて作っているのですが、それが、第45回全国中学校相撲選手権大会で創部以来、初めて全国制覇をしてくれました。黒須中学校です。団体に日本一をとってくれました。合わせて個人戦もありまして、個人戦でも第45代中学横綱個人・団体両方とってくれまして、これは一躍日本国中に相撲のまち、入間というのを、相撲をやっている地域限定だとは思いますが、入間は相撲どころだと。また、本年も3月に行われた第11回全国少年相撲選手権大会、これは小学生ですが、こちらも全国制覇をできました。昨年度は、内々だけではなくて外にも、入間は相撲のまちというのが、だいぶ広がっていきました。先日、ある会社の社長さんが青森の方に行かれて、入間から来たというと、「ああ、相撲で有名な入間</p>

発 言 者	発 言 内 容
椎葉委員	<p>か。」と言われたそうで、大変喜んで報告をいただきました。そういう所まで、入間は広まってきたなっていうのを、感じたところです。相撲とちゃんこ云々というのは、なかなかつながっていないのですが、入間のまちの相撲に関してのきっかけが始まって、今現在になっているのかなという気がしています。</p> <p>ただ、ちゃんこというのは、相撲の中でのキーワードの一つだと思います。ですから、ちゃんこを結びつけるのは、おもしろい発想だと思います。私も職業はお茶屋ですが、なかなかお茶だけでは厳しい世界なので、相撲をもじってちゃんこ焼きという、お好み焼きっぽいものを、商標登録して店舗をやっていたことがあります。店は今閉めています、お相撲というとちゃんこというのは付いて回るようなフレーズだと思います。</p> <p>私は今二つイメージが湧いたのですが、入間市は相撲が強い、わんぱく相撲があると聞いた時に、ジョンソントウンの仲間たちに聞いて、出てきたママたちの言葉が、「そうだよ。入間市は学校教育とか、給食とかもいいけど、相撲とかの運動も盛んで、子育てするのに良いまちだよ。」って出てきたので、そういう意味で相撲っていいなって思いました。北海道とか東北だったらスキーとかスケートで誘致出来ますけど、関東でスポーツがイメージ出来るって中々ないのに、相撲っていいなって思いました。で、有名になりつつあるなら、余計のことお茶と相撲を出し、それに思ったのは、私も墨田区にいるものですから、両国国技館でお相撲さんがたくさん歩いていることや、やっぱりちゃんこ屋さんが有名ですし、営業的に言うと、ミーハーに女子会開くのに体に良いものを食べたい、野菜だと言い始めると、次に出てくるのが鍋です。鍋のおいしいところに行こうといっても、一般的な鍋しかなくて、そういう時に、ちゃんこ鍋を食べに行けたらいいよね、墨田区まで行っちゃうみたいな話がすごく出てくるので、それが関連出来たら、入間市に名物が出来ると思ったので、教育と食で結構良</p>

発 言 者	発 言 内 容
小林委員長	<p>い話だと思えます。</p> <p>わんぱく相撲は毎年、1,000人くらい参加ということで、親も来ると市民体育館に2,000人、いつも6月の月上旬にやるのですが、熱気があります。</p> <p>春日野は皆「栃」が付く。栃ノ心だとか栃乃洋とか。もし、相撲を見る機会がありましたら、スポーツニュースでもちょっと注意して見てもらえると結構出てきます。その人は、10月の合宿で入間市民体育館に来ますので、合わせて見てもらえると興味が湧くと思えます。</p> <p>スポーツとか芸能はピークがずっと続くわけではなく、ピークの時が必ずあるので、ピークが外れた時に自分たちが飯を食うために、どうしてもスポーツとか芸能を作りたがります。時代が時代ですから、また違った形の応援団を模索していくのも。何人かの谷町が多額のお金を使ってというのではなくて、また違った形でバックアップしようと思えば。</p>
椎葉委員	<p>あんまりスポーツ、相撲って言ってしまうと、好き嫌いとか出来る、出来ないとか、うちには関係ないとかなくなってしまいますけど、そうではなくて、もっと大きな子育てとか教育とか食とか大きな枠にすると、相撲っていう目印があって、入間に行くと、そこら辺が良いとかいう風になってすごくいいと思えます。</p>
西澤委員	<p>相撲をやらせたいと思ったらたぶん失敗するけど、そうではなくて、相撲というのをツールとして子どもたちに何かを伝えていきたい。勝つことの喜び、負けることの悔しさ、そういうことを僕たちは伝えたいという発想と思う。ですから、生き残っていったし、皆さんに認められていったと思っています。現段階で、毎年、児童数が減っているのにも関わらず、なんとか1,000人前後を維持しています。今年も、申し込みは1,000</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>人を超えましたが、一度1,000人を超えてから、950人から1,000人におさまることがない。児童数は、年々減っています。それはなぜかなって、私たちなりに分析したのですが、やはりそれは、ただの相撲のイベントではなくて、そこには教育的な要素が多分にある、というのが私たちの見解です。ですから、参加してくれた子どもも良いと思うし、それを見に来てくださった保護者の皆さんも良いと思う。そこを忘れずに大事にしていきたいと思っています。ありがたいことに、この大会は今現在、全国で二番目の規模です。草加が一番で、1,200人。27万人の市民がいて学校は36校。割合でいえば入間の方が上です。僕らは、相撲イベントというよりも、子どもへの教育観点でのイベントであることを忘れずにやっていきたいと思っていますので、もう少し広がっていくのかなと。やっぱり入間の最大の特徴は、女の子の出場数が多いです。圧倒的に全国から比べると女の子が多いです。相撲ってというと男の子っていうイメージがすごく強いと思いますが、女の子に声を掛けていく、そこを忘れずにやっていきたいと思っています。</p>
小林委員長	<p>簡単に1,000人の出場者がいるといっても、例えば、トーナメントを組む時に、どれだけ大変な作業かというのはわかると思うので、主催者側はものすごい労力を使ってやっているはずで、1,000人だとかなり大変です。</p>
西澤委員	<p>入間のわんぱく相撲の本当に良いところは、団体戦をやっています。3人一組で団体戦。入間は個人戦をやった上に、団体戦もやるので、倍量じゃきかないです。個人戦は1人ですけど、団体戦は3人ずつ戦っていくので、実質4倍の労力がかかりますが、それがやっぱり、チームでの勝ちの喜びから、今度はそのチームと団体戦を定数化して、学校表彰までしています。今年の総合優勝は、〇〇小学校ですと。そうすると、先生が盛り上</p>

発 言 者	発 言 内 容
受託業者	<p>がります。これはまさに日本一だと思いますが、今年は200人以上、休日の開催にも関わらず、学校の先生が子どもの応援に来るとか、市内16校の校長先生が全部来賓として来ていただいて、なかなかそういうイベントってないと思います。そういうところが入間のわんぱく相撲の特色のような気がします。</p> <p>今のお話を聞いていて、日本で一番大きなそろばん教室とか、最近教育の話で聞く、彼らが気にしているところをまさにやられていると思うので、学力を上げるとか、能力を高めるみたいなものって、そんなに重要じゃないというか、もちろんやらないといけないのですが、その先に何かあるかわからないのが、これからの世の中なので、その中で、小さい頃からそういうものを乗り越えていく人間成長をどれだけできるかに、トレンドが移っています。なので、悔しいとか喜ぶとか、今の団体戦の話なら、人と一緒に協力して成し遂げるとか、みんなで悔しがるというのもそうですが、そういうものを味わえるっていう、そこに軸足を置いていただいた方が、一人の親としてもとても魅力を感じますね。</p>
椎葉委員	暮らしの提案をしている私としては、それは使いたい感じですね。
受託業者	そこを大事にされようと思った動機というか、きっかけは何ですか。
西澤委員	<p>まず、一番大きいのは、わんぱく相撲を始めようとしたきっかけをつくった男性がいます。彼はスポーツの世界に非常に造詣が深く、中高大と柔道を一生懸命やって、彼が、最近の世の中の子どもたちを見て、非常に憂っていました。競うことを知らないとか、目標に向かって努力を続けることも知らない。だから、人間関係が希薄になっていろんな問題が起きるのだろうと。そういう話をずっとしていた時期があって、その時に、我々が手</p>

発 言 者	発 言 内 容
高橋委員	<p>軽に出来て、子どもたちに何か競わせることは出来ないか。それがわんぱく相撲の始まりです。その彼は、体を壊して今はもう亡くなってしまいましたが、その思いがあって我々が引き継いでやっています。私たちがやりながら気が付いたのは、「争うことからは憎しみを生みますが、競うことから友情が生まれる」、というのが心の底から思っていることです。競っていくと、そこから蹴落としてやろうとかではなくて、切磋琢磨しながら、お互いにのぼって行こうとするのです。それはすばらしいことで、スポーツの原点です。そこが、我々の原動力のような気がします。やろうと思ったのは、その彼の大きな発想ですが、やりながらそういう風を感じています。</p> <p>うちの娘も何度も出ていましたし、子育てっていう枠の中の話になった時に、相撲があって、川で魚釣りをした。大学生の友達が家に来た時に川を見て魚が泳いでいると、それだけで都内から来た人は、すごく驚いて喜んでいました。</p> <p>それだけ自然が身近にあるというところで、相撲があって、川で釣りが出来て、給食もおいしくて、暮らしやすいついていう中に子育てっていう部分もあると思うのですが、その辺の議論が余りできていなかった。</p> <p>あと、アンケートを取ったことがあるのですが、その中にカブトムシが採れるっていう、そういうコメントがあって、子育ての概念としての入間市は暮らしやすいのではと思っています。</p>
関山副委員長	<p>10月に大相撲の合宿が10日間あります。そこで、お相撲さんと一緒に写真を撮りたい、実際のお相撲さんが食べている本物のちゃんこっていうものですよ、と発信したら、それを食べたいお客さんは必ずいると思います。</p> <p>やっぱり入間の教育っていうと、小学校の頃から論語を教えていて、そこ</p>

発 言 者	発 言 内 容
椎葉委員	<p>は外国の方がものすごく訪れます。</p> <p>教育の中で礼儀であるとか、競い合うってことをやっていこうとか、こういうのってとても良いと思うのですが、一方で、10月だけ世界中に発信して、合宿が見られるよ、ちゃんこも食べられるよ、稽古も見学出来る、まちを歩いているお相撲さんと一緒に写真が撮れる、みたいなことをやったら、どうですかね。行政と観光協会が英文で発信したりすると、東京近辺で10日間だけだったら、来る可能性が相当高くなって思いますよ。ほとんどコストもかからずに、グローバルに発信を続けていくと、ゼロからマイナスになることはあり得ないですよ。</p> <p>お相撲さんに抱っこしてもらうのとか、男の人のたくましい像がありますよね。女性にない、そのたくましい像をもらいたい女性が多いことも、実はわかっています。</p> <p>今、観光で海外の人に密かに流行っているのが、東京のあるビルの上で、剣とか忍者の体験とか、和食の作り方を体験するのを、こっそりやっているらしいです。でも、忍者とか剣道は道具が必要で、仕掛ける側も少し専門っぽくなって、お金もかかるし道具も必要だし、人数も決まっちゃいますけど、相撲って考えたらいらない。それで、心と体験が出来るから、身近ですごくいいと思います。</p>
関山副委員長	<p>本物ですよ。忍者モノって滋賀や長野でもやっていますが、それが何で遠い海外から来るのかというと、そういうノウハウを持っている人が本物を教えているからだと思うのです。そうになると、観光というビジネスで考えないといけないから、手早くコストをかけずに考えると、活きるなあと。</p>
椎葉委員	<p>今、一番注目されて話題になっている内容だと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
関山副委員長	<p>10月の大相撲の合宿がある時に、外国の方達が来て、まちを歩かれても、抱っこしてくれっていう女の子がいるのかどうか。あるいは、見学させてほしいとか、本物のちゃんこを食べてみたいとか、それはうまくいく可能性があるのでしょうか。</p>
西澤委員	<p>相撲協会というのは、独特な世界です。公式行事、例えば巡業であるとか、いろんな部分で権利が発生してくるので難しいところがあるのですが、その一つの部屋、春日野部屋が相撲協会全体の流れではなく、親方の独断というか、采配によってまちの一つで合宿をはるといのは、相撲協会の範疇ではないので、例えば写真を撮ってください、ちゃんこを云々、稽古を見せてくださいといのは、親方さえOKすれば何ら問題ないと思います。</p> <p>春日野は、人間に対して非常に理解を持っており、20年近い交流があるので、人間のことを心から考えてくださるので、観光協会さんからのご提案や、共にやってきた経緯がありますので、さほど難しい話ではない気がします。ただ、確認をしてご報告させていただきたいと思います。</p>
関山副委員長	<p>海外で日本文化のオーナーになりたいという人が世界中にいます。相撲の部屋、株券と同じように投資したいと。日本で言うとふるさと納税のようなもので、そういう仕掛けは、相撲に関しては相当のってくるのではと感触があります。一年中やっている大変ですが、時期があらかじめ10日だけだよってなると、わんぱく相撲でこれだけ人がたくさん来ていて、子どもたちがやっている、しかも女子がやっているといのは、欧米圏の方にはちょっと意外だと思うのです。なんで日本人の相撲ってパンツを履かないっていう話から、なんで男女平等なのに女性は出来ないのだ、と。そういう話があったので、女の子が頑張っているとなると、ものすごく興味が出てくると思います。仕掛け方によっては。</p>

発 言 者	発 言 内 容
椎葉委員	<p>核として言えるのは、10月の段階で本物のお相撲さんが来られるのであれば、対日本人向け、対外国人向け。それから、本質的には入間は教育っていうことで元々は発生しているものですから、それは確固たるイムズがあるので、子どもたちのわんぱく相撲っていうふうに住み分ける。</p> <p>ちょっと定住型というのとは違う。定住というコンセプトとは違うけど、でも結局それをやっていいなあと思って、ジョンソントウンがあつてみたいな話になれば波及効果がないとはいえないと思います。</p> <p>それこそ、観光じゃなくて定住だといっているから、きっと相撲のテーマは子どもの教育、日本人の在り方みたいな方が良いでしょうけど、でもそれだけでいくとわからないでしょうから、裏側に観光だとか、本物の相撲とかがついてきた方がいいですよ。テーマの外側に確固たるものがあるといいかなと思います。</p>
関山副委員長	<p>わんぱく相撲って、元々こういうイムズがあるのだけど、そのイムズを前面に出すことによって、やっている親御さんも気が付くかな。ということは、親も教育しているってことです。だから、匂わせるのですよ。</p>
椎葉委員	<p>ゆとり教育では運動会で競争させても一位をつけない、競争させないのですよね。で、無理しないとか、汗をかかないみたいな教育に至った。だから、すごく良いです。それは間違いだったって言っているのだから。</p>
小林委員長	<p>相撲部屋は、行ってみると分かるのですが結構狭くて、例えば外国人さんがたくさん来ても入るのが大変ですよ。ちゃんこを食べるスペースもない。むしろ入間は土俵もあるしスペースはあるので、天気さえ問題なければ受け入れやすいかなと思います。観光協会以外に、入間は国際交流協会があるので、外国語はそちらのスタッフとして揃っていますので、いろん</p>

発 言 者	発 言 内 容
小林委員長	<p>な形で展開は自由かなと思っています。</p> <p>相撲に関しては特に質問がなければ、この辺にします。</p> <p>高橋さんが苦勞された資料があるので、そちらをお願いします。</p>
高橋委員	<p>そもそもこの会議に出る前に考えたことが色々ありまして、頭の整理をして考え直してみました。</p> <p>シティセールスの背景で、自立を目指すことであると思います。</p> <p>拡大、均衡、縮小路線と人口減っているという中で、均衡がちょうどよいのかと思います。</p> <p>都内に大学生がどんどん帰っている現状があります。</p> <p>周辺自治体が発展している中に入間市が位置している様子を表していて、入間市は、自立をして周りとは違うポジショニングでいくべきと考えています。</p> <p>そんな中で30年後どうなっているか。今まで私は、暮らす、生活するという視点で話をしてきました。</p> <p>住民視点では、自然環境、自然が豊富、安全、災害が少ない。暮らす視点では、生活が便利、文化的、子育てしやすいとか。産業では、入間市で暮らすとして、住むところと働くところが近いといいなあと。ただし、産業として何があるかは課題です。どんな風になっていけば実現できそうか。</p> <p>コンセプトは、小さな単位でも自立できているまち、ドイツの衛星都市のように、特色があって自治意識、文化意識に共鳴した住民が集うことを目指す。</p> <p>どんな風になって欲しくないか。平凡などこにでもあるまちにはなって欲しくない。茶畑が無くなって景観が無くなって欲しくない。ベッドタウン、寝るだけのまちにはなって欲しくない。</p> <p>周辺自治体の色んな特色を持ったところと連携して生きていくというか、</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>そういう視点を加えておくことが、今後必要になるのでないかということ を表しています。</p> <p>次のページは、仏子地区、藤沢地区、金子地区、入間市駅周辺ごとの自分 のイメージが書いてあります。</p> <p>住むところと働くところが近い環境を提供できればと考えています。</p> <p>それから、最後にアンケートを取りました。</p> <p>近所の30代から70代の人に聞いて、データをとったところ、入間市が 好きか、入間市に住みたいかという視点でアンケートを取りました。入間 市が好きかと入間市に住みたいというのは相関関係にあり、好きだったら 住むみたい。好きだけど住まないとか。嫌いなけど住むとか、そういう 風になります。あと、昔、他の所においてここに転入してきた人、ずっとこ こにいる人、二つの人があります。ずっと住んでいる人というのは、安心 してずっと暮らし続けているので、まあまあ好きでまあまあの暮らしをし ている人ですが、他の所に住んでいて、あっちもこっちも見てきた人は、 ここがダメとか、ここが良いよとかわかるし、住んでいる理由があって、 ここが好きだから住んでいるっていう理由と、ここに住みたいから住んで いるというのは、好きと分離するところがあります。その辺が一つ着目点 としてその辺を解明していくと、好きで住みやすいというのがわかるので はと思います。</p> <p>少し好き、とても好き、少し住みたい、とても住みたい、というところで 色分けしてみた結果、とても好きで住みたいという人は、自然が多い、環 境が良いという意見があります。</p> <p>とても好きだけど住むにはどうか、という人は、交通の便が悪いというの があります。</p> <p>あとは、全くの入間市に行ったことのない人は、入間市をどう見ているの かというのをネットで調べたところ、西武王国、お茶、狭山市の隣が入間 市。住民だけは、田舎じゃないと思っています。</p>

発 言 者	発 言 内 容
小林委員長	<p>ここは悪い表現ですけど、良い表現にとると、入間市民は独自の価値観を共有している、そういう理解ができます。入間市って、独自の文化を持っている、私は文化的な人間だと思っているのに、外から見ると、そうは思わない。そんなに街にも近くなって山があって、まさに住んで味わう、そこに住んでいる人にしか分からない価値観があるってところにギャップがあると感じました。</p> <p>テイスティなまちというコンセプトは、ある程度住んでいる人は感じていて合致しているということ。</p> <p>あくまでも私の勝手な意見として、まず合併問題について。</p> <p>恐らく県は、所沢、狭山、入間、飯能の4市で一つのブロックになるような形を進めていると思います。消防局が一つになりました。保健所も整理統合しました。この4市で、行政単位をやった方がいいと、県の方はそういう風に動いていくと思います。</p> <p>ただ、これが合併となると、この4市はそれぞれ独特の文化があって、狭山、所沢、飯能とも違うということで、入間は結構独特なところがあるというのは確かだと思います。</p> <p>工業などに関しましては、前市長は、工業団地を作るにあたって倉庫はあまり誘致したくないとおっしゃっていました。というのは、倉庫は雇用に結びつかないので、雇用に結びつく工場を誘致したいということで、倉庫はあまり作らなかったと思います。入間にはチーム入間という小さな企業ですが、特別な技術を持った企業体があります。そういったところで、マスコミに時々チーム入間が取り上げられていて出てきますので、見ていただけるといいと思います。倉庫は、今のところ日高が多いですね。日高市は企業誘致を一生懸命やっています。</p> <p>ある国会議員さんが、日本の人口は減っていく。ただ、国道16号を境に内側は人口の減り方は少ないであろうと。国のレベルではそういう認識が</p>

発 言 者	発 言 内 容
関山副委員長	<p>あるということでした。人口を増やすというのは、役所の人たちは大変です。人口が増えるとゴミが増える、学校を増やさなくてはいけないなど、諸々のことをやろうとした場合、かなりの負担になるのは確かです。できたら、現状のままずっといくのがいいという所もあります。</p> <p>土地は、ご存知だと思いますが色々と制限がございます。農地に簡単に家は建てられません。市役所の周辺は自衛隊の飛行機の関係で、高さ制限があって高層の建物はできません。市民会館も建て直すことはできません。役所の人でさえ、結構色々な目的や用途によって簡単に動かさないで、難しい所があります。</p> <p>何かご意見があれば伺いますがいかがでしょうか。</p> <p>お相撲の関連で礼儀や教育って出ましたが、以前学校の給食は自校式ですごく美味いよって高橋さんが言われていました。子育てしやすい面というのは、みんな、うんと言っているでしょう。</p> <p>それを改めて列挙したら、何なのっていうのを、もう一回確認したい。例えばジョンソンタウンみたいなところに住みたいと言って、1950年くらいのイメージがいいなあと思って来るでしょう。その人たちは、たぶん子育て世代になっているはずだから、学校に行くときに、「いいじゃないやっぱりここは。」って思ってもらう関連になるはずなので、それが知りたい。</p> <p>それから、チーム入間ってテレビでも何回もやっているし、とても細かい作業をやっているとか、特許を持っている企業があるとか、これが売り物になるのかどうかっていうことを確認したいです。普通は、観光というパターンではなく産業誘致になるはずで、チーム入間を売りにするっていうことは産業誘致としてやってもいいのですが、行政がチーム入間で特殊なものを育てていったわけではなくて、やっぱり企業が一生懸命企業努力でやっているはずなので、それを売るとしたら、どういう考えがアイデアと</p>

発 言 者	発 言 内 容
椎葉委員	<p>してあるのか。</p> <p>最後に、ここ一番重要ですけど、入間で茶は確かに重要な要素。でも、今までお聞きしていることを振り返ってみると、儲からない、すごく損している、やれないっていう話ばかり。恵まれないっていうのは、多分お茶屋さん自身の経営で限界となっている。</p> <p>茶畑がなくなったら入間じゃないということを言われていて、このままでいくと、世代交代してうちは頑張るやろうと意欲をもってやらなかったら、マンションやビルは建たないけど、荒地地になる。</p> <p>ここは住みやすいよって言って定住する時に、ジョンソントウンがあります、お茶がありますと、この住民が育んだものを持っていますというのは見えてきたけれども、その対策が全然見えません。</p> <p>お茶に関しては、この間の青年会議所の会議の時に、アンケートを取られて、このまちの特徴は何ですかって言った時に、もう大多数の人がお茶って書いてありました。お茶って書く割に、全国シェア2%でしたか。大事だって言っている割に、お茶に注目して何か仕掛けようとしているとは見えない。だから、もし言うならば、茶畑をマンションにされない対策よりも、狭山茶は入間だと認知、知られること。あと次に、「なぜお茶一本で商品作ってくれなかったの?」。逆に、どの意図でお茶だけって言ったのって聞き返したら、うちは日本茶を救わなくちゃいけないのだから、日本茶だけ考えればいいって言ったの。それじゃ、あなたの家にもお茶がありますかって聞いたら、コーヒーしかないって。入間市に住んでいるのだから、お茶くらい飲みなさいよって急に出すわけにはいかず、自発的に、お茶が飲みたいって、どういう人が思うのかなって思った時に、私は小さい時、誰かの家に遊びに行ったら、「よく来たね。まずお茶飲みな。」。喧嘩しても、嬉しいことがあっても、「まずお茶飲みな」って言われたので、私のセールスポイントのアドレナリンが出る幸せという瞬間は、昔も</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>過去も幸せな瞬間だと。画像はインテリアで良いでしょうけど、味は断然お茶だと思っているのに、そのお茶を日本人が忘れ始めている。</p> <p>日本には、静岡、宇治、狭山茶があることは知っていましたが、狭山茶の特徴を入間に引っ越して来るまで知らなくて、入間に一年住んでいても知らなかったです。飲んだ時に、味が美味しいってびっくりしました。でも、味が美味しいってこと自体、世の中ほとんど知らないと思います。でも、飲ませないと味が良いことが分からないですね。だから、そっちの仕掛けを考えて。</p> <p>お茶屋さんに頑張ってくれと言っても無理なので、そういう仕掛けを考えていって、入間市からお茶が無くならないように、市民としてもそれは協力していきたい気がしています。</p> <p>この資料を前もってもらった時に、凄く感動しました。漠然と言っていたことを、こんなに客観的にわかりやすくまとめていただいて、現実になりそうな気がするって思いました。なので、慌てて私の周りに、私なりのしゃべりで、今、市はこういう風に進んでいるよって言い方をしました。そうしたら、主婦たちが「えっ、市がそんなことをやっちゃうの。すごい。」って言っていました。まさか、市がこういうことをやってくれるなんて、私たちも最初から諦めています。何で市はやってくれないと思っているかという、こんな生き方をしたい、こんな暮らし方をしたいなんてことは、市は考えてくれないと思っていた。用意してくれるのは、道とか公園とかだけで、もし、そういうものを用意してくれる市があるとしたら、すごいって話を聞いていて、日本一になると思ったのですよ。だって、そういう市がないのだから。あとは、文章だけではなくて、実際にどんどん素敵な暮らし入間を、実際に皆がやらないといけないし、それを告知していかないと、日本一にはならないので、その準備をすることの方が先かなと思っています。</p>

発 言 者	発 言 内 容
小林委員長	<p>チーム入間に関しては、マスコミは取り上げています。</p> <p>この間、青年会議所のシンポジウムの時にコーディネーター。彼も高度な技術を持っています。スーパーゼネコンで受けられないものが、その人のところに来るといふ、精密加工技術では結構すごいのです。</p> <p>市としてもっと表に知らせてもいいのかなと。</p>
椎葉委員	<p>チーム入間というのがあるということアピールして、一般的に知られるといいな。</p>
西澤委員	<p>お茶に関しては、お茶屋さんの後継者が後を継ぎたくないという問題、後継者の問題はあります。実際、お茶を作る家は後継者がいなくなっているという話を聞きます。</p> <p>私から言わせると、皆さん飲んでないって言われたじゃないですか。</p> <p>お茶屋さんがなんで狭山茶を飲まないのっていうアンケートを見たことがない。</p> <p>一般の人は何でお茶を飲まないのですかっていうようなアンケートも見たことがない、100g 幾らなら買いますかっていうアンケートも見たことがないです。</p>
椎葉委員	<p>値段の問題ではなさそうな気がします。</p>
小林委員長	<p>あと、日本茶のかわいそうなところは、紅茶とかコーヒーとかはインスタント、ティーバッグから入ります。お茶は、おいしいお茶から入ってきているので、それがインスタントとかティーバッグがなじまないという。結局、後のお掃除が面倒くさいとかで、こういう形になっているのかなという気がしています。</p>

発 言 者	発 言 内 容
椎葉委員	<p>日本人はお茶飲んでますよね。飲まないわけではない。入間市のお茶って、調べたところによると、地元で製茶して、自分で売って生計が成り立っている。小さい循環でやっていって、数的には多くはないから分からないうちに段々減っていっているのが問題だとは思いますが、でも味は、アピールしていけば…。</p> <p>美味しいというよりも、お茶ってお金を出して飲まなくて済むお水のようなものですよね。喫茶店に行くと、お洒落にコーヒーと紅茶はお金を出して飲めばよくて。</p>
西澤委員	<p>お茶って、空茶っていう言葉があります。空茶っていうのは、お茶だけで飲むことを言います。コーヒーは空コーヒーって言わない。コーヒーは、コーヒーだけでいいのです。お茶の場合は、茶葉子がかないとお茶にはならないくらいタダなのです。</p> <p>「空茶ですみません」っていうのがその風習だと思います。</p>
椎葉委員	<p>そう。食べ物屋に入ったら、水とお茶は出てくるものだと思っていて、だから、だんだん、すごくないがしろになっていった。きちんと味わっていたはずなのに、でも、お金を出して美味しいものを美味しいと思って飲んでるうちに、そっちが飲み物になってしまったのですね。</p>
小林委員長	<p>この件に限らず、何か質問があればお受けしますがいかがですか。</p>
椎葉委員	<p>産業について、ここが入間王国になっていったら、必要な産業はどんどん広がっていくのではないかと。例えば建築。家を建てて住んでもらう、庭造りもそうです。それを、自分のお金では出来ないから、援助してもらいたかったら融資、銀行が必要になりますよね。小さなまちが、しっかりとしていくような気がするのですよ。おまけに、工業も進んでいますよね。</p>

発 言 者	発 言 内 容
高橋委員	<p>ついこの間出た話なのですが、民営、営業、企業っていうのはお金儲けで、お金儲けをしたい人が、どんどん話を進めてしまうことが多くて、下請けさんは、ただの職人になっていく。その職人さん達が、自分たちが企業家として一軒の会社として大きくなっていきたいというのを、チーム入間の斎藤さんがおっしゃっていたと思います。例えば、有名なまちに住みたい人がいて、まちで十分買い物ができるようになって、海外や他県からも遊びに来るようになって、そしたらおみやげも欲しくなる。または、入間というカリスマな生活に憧れたら、そのパーツを買い求めないと自分たちが生活出来ないと思わせるぐらいまでになったら、生活のものを買うようになる。やっぱり入間市の中に、ここで生きていくと全てが揃うよという理想の世界がもし出来たら、産業も潤っていくような気がしました。</p> <p>まちの中で、需要と供給が必要になっていく。海外に癒しに行かなくても、入間市が癒されるまちで味わう場所だって言ったら、海外にお金を落とさなくていいですね。</p> <p>リゾート地として、入間市にお金を落としてもらったらいいですね。</p> <p>ここで暮らしながら働けたらいいですね。住み心地が良くて、子育てもしやすく、職場が近くて歩いて行って仕事をして帰ってくるとか、そういう風になって、労働者が集まって来たら理想ですね。女子大の教室を起業するようなスペースとしてどうですかとか。住み心地が良いことが前提の下で、集団で働けるような研究室みたいな。</p>
受託業者	<p>「外部視点で入間市民は独自の価値観を共有している」という高橋さんの意見。本人たちは満足しているということですよね。実際に、お話を聞いてみると、給食の話もそうですし、何でいちいちこだわっていたり、良かったりするのだろうって、聞いてみたい。それは、共通の感覚として、もっと向上していかないといけないというのを、今おっしゃっていること</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>だと思います。それとは別に、外には全然伝わっていないということなのでよね。人間王国は、不思議のくに人間だったりするのですよね。なので、それを分かりやすく外に出してあげる、もちろんシティセールスなので、外の人にそれを伝えてあげつつ、並行して、良くすべきは良くしていくみたいなことが、たぶん今回の趣旨だと思います。</p> <p>～休憩～</p>
小林委員長	<p>お茶に関してなんですけど、他県では、2世代目、3世代目で辞めちゃっているところを、海外とかから来ていただくことがあるようですが、そういうのはどうですか。</p>
西澤委員	<p>辞めた後の選択肢がありすぎる。辞めても何とかなる。初代、2代目は違う仕事でした。3代目が農家を始めて、父が4代目。生まれ育った時からお茶をやっていないという意味もあるのかもしれませんが、父の代からお茶を始めて、私の代でもお茶をやっている。お茶の畑はありますが、本当にやっているのかというと、やっていないというのが実情です。それはなぜかということ、間違いなくお茶を辞めても食べていけるから。</p>
椎葉委員	<p>それは、お茶がしんどいからではなくて、お茶以外の魅力があるからですよね。</p>
西澤委員	<p>その方が大きいかもしれないです。人間市全部にあてはるかはわかりませんが、例えば、静岡や九州だと、もうお茶屋がないっていう感じなんじゃないかと思います。現実問題、農家の長男に生まれて、就職をして、家を出てっていう方がいらっしゃいますし、私も、ご多聞にもれず、大学卒業し、お茶以外の何も知らずにやってきて他の仕事をしています。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>ですから、それでやっていけるのかっていうのが強いような気がするんですが、それともう一つは、やはりお茶農家に魅力がないのかもしれない。</p> <p>反面、一生懸命お茶を2世代3世代でやっていらっしゃる方も、間違いなくいますし、そういう方が一生懸命頑張ってくださっているので、入間の茶文化というのは、なくならずにやっているんだと思うのですが。今は、選択肢が増えているからではないかなという気がします。</p>
椎葉委員	<p>質問の仕方を変えていいですか。そのお茶屋だけでも徹底的にやったら、儲かりますか。</p>
西澤委員	<p>難しいですね。昔、青年会議所の現役の頃、市役所の方が色んなお話をされていたのがイメージにあるのですが、入間のお茶屋っていうのは、その当時500軒くらいあったようです。それが、何年か後には200軒になるよね。もう10年経つと、たぶん100軒になる。その時はまだ、お茶屋としてお茶だけでは厳しい。50年もしくは100年近くなると、入間のお茶屋っていうのは、3軒、5軒になる。</p> <p>その時は、天下だなんていうのをすごく覚えている。今、淘汰されていっても、ただ、なくなる。お茶の文化として残っていく。そういった時に触れられて、大きい所に吸収されるか、色んな意味で少なくなっていく。最後は、日本にお茶の文化がなくなる。その時は、その人たちの天下だという話を、なるほどなって。それが20年くらい前の話ですが、時を見ていてその通りになっているので、そんな感じなのかなという気がしています。その中で、振るわれていかない体力と知識がある方が残っていく。</p>
小林委員長	<p>お茶屋だけではなくて、埼玉県って商店も同じで、借家があると結構メシが食べちゃうということで、なかなか一生懸命仕事をやらない。</p>

発 言 者	発 言 内 容
椎葉委員	<p>やらないのをやらせるようにするのは難しいし、やっぱり、やりたいと思ってもらえるようにするしかないですね。今、テレビでも随分お茶が取り上げられています。栄養的にも。それで、お茶屋さんってすごいと、お茶屋さんが新しい発想でこんな提案をしてくれているってなったら注目されていくような気がします。</p>
小林委員長	<p>お茶に関してのことですが、お茶の消費が伸びているというのは聞きます。その何割、かなりの確率がこれですよ。入間の原材料、一番茶から年収の何割か出て、一番茶でこれを使うかということ100%使わないですね。急須で入れたお茶っていう文化が発達していかないと、入間は厳しいと思います。一番茶ってうたっていますけど、どういう風な方法でやっているのかはわかりませんが、狭山の一番茶を使ってペットボトルのお茶を作るのは無理です。単価的に。</p>
椎葉委員	<p>その発想で、ハーブティーを考えました。ハーブティーが素敵だとか飲みたいということよりも、お茶がタダで飲める空想があって、これに一番茶を使うコストが合わない。それじゃあ、お茶はすごいつて思わせて、お洒落なハーブティーにすれば、その発想でお茶を思い出してもらえるような仕掛けを考えたらいいのかなと思いました。</p>
西澤委員	<p>私も、お茶の業界が長くて、若い頃は色々試行錯誤したこともあって、今の若い子は違うのかもしれないけど、打てど響かずという組織をすごく感じたことがある。昔ながらのカチカチの考え方で、どちらかという僕是对岸にいたいタイプでした。去年、久々にヒットだなと思ったのが、煎茶パック。ああいう発想って、なかったよね。何か仕掛けをしようとか、ただ良いお茶を作ろうというのが昔からありましたが、作った後、どう広めてっていうのが無かった業界だったような気がします。久々に素晴らしい</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>と思ったのが、一軒ずつ、少しずつ一つにして、1500、1600円で売りました。そう発想する、考えるっていうのがすごく大事だというのが、ずっと思っていたのですが、どうやったら良いお茶を作れるのだろうかっていうのは、皆さんすごく考えると思うのですが。</p>
椎葉委員	<p>ハーブティーに関しては、外から動かさないのとってこないと思います。ハーブティーに限らず、外からそのお茶に関する商品ない？と言わせたいですね。</p>
受託業者	<p>生産者の方々を変えるのではなく、埋めていかないとだめってことだと思います。普段は、宣伝とかに関わったりするので、色んなものがあるのでしたら、それを売ろうというよりは、入間で結婚式とか、入間の方が結婚する時には、引き出物で出してもらおうと、参加者皆が手にもって広げてくれる様なことを考えていきますよね。</p>
関山副委員長	<p>静岡の小学校で蛇口をひねるとお茶が出るっていうのがありますが、行政政策的に可能ですか。構造とか予算とか仕組みはわかりませんが。冬になると、蛇口をひねるとそのままお茶が出るので、インフルエンザにならないとか。</p>
高橋委員	<p>入間市の小学校でも、インフルエンザ防止でお茶を飲ませるじゃないですか。あれは、どういうシステムでしたか？</p>
守屋副参事	<p>入間市で風邪の予防でお茶を使っとうがいをしましょうっていうので、全校でそういう動きがあった。多分、やかんで各クラスに持って行って、うがいをしてもらおう。</p>

発 言 者	発 言 内 容
小林委員長	<p>基本的にお茶って、熱いお湯で入れると茶色くなり、緑が消えます。常にお湯のタンクにお茶を入れて置いておくと、時間経過でこういう色になる。</p>
椎葉委員	<p>この間、お茶屋さんから勉強したのですが、お茶は低い温度の方が色も味も出る。グリーンを出したいなら、出来るだけ低い温度で入れるよう言われました。</p>
小林委員長	<p>熱いお湯で入れれば、数秒で出ます。ぬるいお湯で入れると、時間がかかる。何分もしないと色が出てこない。</p> <p>もし出来るのであれば、学校でも急須で入れてみんなで飲むとか、必ず急須に入れて飲むという文化を定着させて、関西人はみんなたこ焼きが上手に焼けるように、入間で育った人は、みんなお茶が上手に入れられるみたいなことを話題にしていった方が良い。</p>
関山副委員長	<p>小学校の各教室に、急須とお茶を、子どもたちは自由に飲んでいいよとあれば簡易に出来ますよね。</p> <p>先ほどの相撲の教育の話とも通じてくると思います。</p>
椎葉委員	<p>そうですね。文化をちゃんと子供たちに教えていく。今、自分の教室で毎日日本茶を緑で美味しく出すのを極めようとしているのです。どんどん勉強するとそういう気になってくる。</p>
関山副委員長	<p>今、富山市は、国も着目していますが、農地、田んぼを大規模に公有地として農家から買い取っている。そこで新規就農を募集したら、いっぱい集まってきたってことがあって、総務省はすごいやり方だと。このままの状態です。西澤さんがおっしゃられる通りだと、間違いなく耕作放棄者が増</p>

発 言 者	発 言 内 容
守屋副参事	<p>えていく。数件だけお茶屋さんが残るっていうことになるのと、私有地で自分のところは手を出すなっていう構図はない。もうそこに任せて一気にやれるという仕組みを作っておかないと。</p> <p>現状では、他のお茶屋さんに貸すっていうのも結構出てきていて、他のお茶さんが大規模にやるから営業的にやりやすいということで、民・民で貸したり、もう一つは、リース会社が入ってきてそういう土地を集めて、まとめて動かそうという動きがあります。</p>
関山副委員長	<p>耕作放棄地がどんどん増えていくっていう想定はないということですね。</p>
山崎部長	<p>高齢化もあって耕作放棄地が増えるということで、一括借り上げる中間管理機構という組織を作る。それは、例えば埼玉県の東部、農林公社っていう県の公社があるのですが、そこが中間管理機構になって一括借り上げる。県がバックについているので、貸すのは安心です。一括借り上げた中間管理機構、農林公社が、民間の企業に一括で貸して、広い集約した農地を耕作していただくという手法を、今全国で取り入れています。埼玉県もそういう形でスタートしておりまして、入間市も一部始めてはいるのですが、全国的な目標があって、それになかなか到達しない。国が描いたものの2割くらいしか平成26年度はいっていないので、さらに力を入れるということにはなっている。</p>
小林委員長	<p>データの的には、まとまるような形になりますか。足りないもの、聞いておきたいことがあれば。</p>
受託業者	<p>ちょっと今即答しかねるので、作りながらやっぱり足りないとか出てくると思います。今回ご覧いただいているものも、出た話だけを並べていくと</p>

発 言 者	発 言 内 容
<p>小林委員長</p> <p>守屋副参事</p> <p>小林委員長</p>	<p>途中で隙間が出来てきて、新しく視点を入れるとか、間に入れていかないと、一つのストーリーになっていかないと、たぶんまとめていく段階で出てくると思います。</p> <p>それでは、シティセールス戦略会議については、以上です。議題2のその他の方に移らせていただきたいと思います。事務局の方で何かありますか。</p> <p>特にありません。</p> <p>それでは、ないようですので、議題2のその後も終了ということで、戦略の枠組みとか中身も大まかですけども、かなり確認できたのではないかと思います。大幅に前進できたのではと考えております。</p> <p>それでは、本日皆様方から様々な意見を賜りました。シティセールス戦略会議の道筋が、より明確になってきたかなと思います。次回は、シティセールス戦略会議の原案について議論をさせていただきたいと考えております。次回につきましては、また改めて事務局よりご連絡がいくかと思いません。本日は長時間にわたりありがとうございました。</p>
<p>議事のとん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">年 月 日</p> <p>議 長 の 署 名 _____</p> <p>議長が指名した者の署名 _____</p>	